

県民の森 植物紹介 ⑤4

アカエゾマツ (マツ科)

常緑針葉樹。北海道の代表的な樹木のひとつで、自生は、北海道と早池峰山に限られています。高さ 20m、直径 60 cmほどになり、整った円錐形の美しい樹形であることから、クリスマスツリーとして多く利用されています。

花は初夏。雄雌同株。雌花は、紅色で 3 cmほど、枝先で直立して咲きます。雄花は黄茶色で 1.5 cmほど。風媒花で、雄花は枝いっぱいにつき、風が吹くと花粉が舞うのが分かるほどです。

秋に出来る球果は、長さ 5 cm～9 cmの長楕円形。県民の森ではニホンリスが食料としていて、齧られてエビフライのような形になった食痕がたくさん落ちています。規則正しい笠がすらりとした球果は、クラフト材料として大人気。森林ふれあい学習館で体験できる松ぼっくり工作の材料として提供されています。

材は、建築材としての利用の他に、音の響きがよくとされ、ピアノやバイオリンの響板として用いられています。

厳冬期、アカエゾマツに雪がしんと降り積もる様子は、凛として美しく、荘厳という言葉がふさわしい光景です。今年も、冬が来るのが楽しみです。



2021 年 2 月 17 日



雌花 2021 年 5 月 31 日



雄花 2021 年 6 月 1 日



学習館の工作体験のアカエゾマツ